

2017/6/24 05:30 神戸新聞NEXT

## 国内外の学生が議論 神戸外大で模擬国連始まる



模擬国連で各国の代表になりきり、話し合う学生たち＝神戸市西区学園東町9

[拡大](#)

「日本大学英語模擬国連大会」が23日、神戸市西区の神戸市外国語大学で始まった。25カ国から約170人の大学生や教員らが参加。25日までの3日間、学生は、議長や各国の外交官になりきり、女性の自立などをテーマに議論を尽くす。

同大会は、学生の国際問題への理解を深め、議論の力を養うため、2010年に始まり、関西の外国語大学が持ち回りで開く。参加学生は各国の代表として、自国の利害を決議に反映させるために議論に参加する。会議はすべて英語で行う。

学生は、国連職員らから東ティモールや南スーダンの現状や活動について話を聞いた後、約50人ずつの3グループに分かれ、「女性・女児に対する暴力の撤廃」「経済的エンパワメント」などの課題を討論。事前に調べた担当国の現状を踏まえて、小グループでの委員会討議に参加した。最終日までに決議を出す。

討議では、流ちょうな英語で意見が飛び交った。スペイン代表の神戸市外大3年の女子学生（20）は「各地で女性のエンパワメントに関する専門家の育成を」と提案。「他国の状況を考慮しながら、自国の不利益にならないように気を配るのは本当に難しい」と話した。

学生事務総長を務める同大4年の女子学生（21）は、「英語力に限らず、コミュニケーション能力や交渉力が試される場。一人一人が学びや課題に出会う会にできたらうれしい」と話していた。（貝原加奈）